

IV-60

過疎地域の観光開発に関する一考察

秋田高専 学生員 ○吉田 紀子

秋田高専 学生員 鷺谷 斉

秋田高専 正 員 折田 仁典

1. はじめに

観光開発は多くの地域で計画され、実際に事業展開されている。過疎地域においても例外ではなく、地域振興策の1手段として多に期待されている。しかしながら、このような過疎地域での観光による地域振興策には多大なる問題、課題が山積しているのが現状である。1つには観光資源そのものが貧弱であり、社会的認知度が低いこと、2つめには道路ネットワークの不備による観光資源までのアクセスなどの問題が指摘できる。とは言え、このような地域単独での人口増加が望めない過疎地域においては、交流人口の増加を図ることにより地域の活性化を行うこと以外、整備方策が見つからないのも事実である。秋田の観光をとりまく環境の変化としては、秋田新幹線（平成9年3月開通）、秋田自動車道（平成9年度中に北上ICへ接続予定）、大館能代空港（平成10年7月開港予定）と秋田県の高速交通体系の整備が進められている。これは秋田県内の過疎地域観光にとっても大きな転機となるにちがいない。そこで本研究では、過疎地域の振興には観光開発が重要であり、そのためには道路整備が不可欠であるとの認識に立ち秋田県内の観光の現状把握および道路問題を中心に分析を加えるものである。

表-1 観光開発と地域活性化の現状

2. 調査の概要

調査は秋田県内69市町村の観光部門を対象に、平成8年11月に実施した。調査方法は、郵送配布・回収とした。（回収率86.9%：郵送配布69票、有効回答数60票）調査項目には各市町村の保有する観光資源およびイベントの現状、観光開発の現状や道路の評価、自由回答欄などを設定した。分析手法として、数量化理論第Ⅱ類、数量化理論第Ⅲ類を用いた。

3. 分析結果

(1) 数量化理論第Ⅱ類による分析

ここでは、各市町村における観光開発の現状を把握するため、表-1に示す「市町村内のネットワーク」から「新たな観光資源の開発」までの8アイテムを用い、数量化理論第Ⅱ類を適用し

た。用いたサンプル数は過疎地域22、一般地域26（過疎地指定以外の地域）の48地域である。各アイテムのカテゴリーは「かなり良い」「良い」「悪い」の3段階とし、外的基準は『観光開発の成功度』および『地域

【係数とレンジ】			観光開発の成功度		地域の活性化	
	アイテム	カテゴリー	係数	レンジ	係数	レンジ
×1	市町村内の道路ネットワーク	かなり良い	-3.3287	3.3287	0.8573	0.8573
		良い	-0.4524		0.6065	
		悪い	(0)		(0)	
×2	他の地域との道路ネットワーク	かなり良い	1.2635	1.2635	1.5848	1.6213
		良い	0.4455		-0.0365	
		悪い	(0)		(0)	
×3	歩道・車線数 道路幅員などの 改良・整備	かなり良い	-1.3471	1.3471	-0.7408	0.7921
		良い	-0.1370		-0.7921	
		悪い	(0)		(0)	
×4	勾配・カーブなどの 改良・整備	かなり良い	-1.2634	1.2634	0.7067	1.0821
		良い	-0.1718		1.0821	
		悪い	(0)		(0)	
×5	休息施設	かなり良い	0.3649	0.3649	-1.1109	1.1109
		良い	0.3201		-0.1223	
		悪い	(0)		(0)	
×6	施設のPR	かなり良い	-0.2715	0.2993	0.8014	1.3142
		良い	-0.2993		-0.5128	
		悪い	(0)		(0)	
×7	施設の拡充・改善	かなり良い	-0.1652	0.1804	2.3381	2.3675
		良い	-0.1804		-0.0293	
		悪い	(0)		(0)	
×8	新たな観光資源の開発	かなり良い	-2.0856	2.0856	2.7643	2.7643
		良い	-0.0349		1.2934	
		悪い	(0)		(0)	

相関比

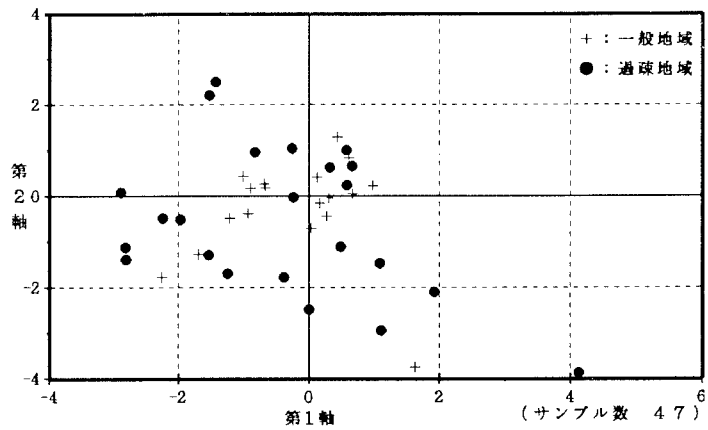
0.8071

0.5997

の活性化につながっているか』である。表によると『観光開発の成功度』に最も影響を与えている要因は「x1:市町村内の道路ネットワーク」(3.3287)であり、次いで「x8:新たな観光資源の開発」(2.0856)、「x3:歩道・車線数・道路幅員などの改良・整備」(1.3471)の順であった。この結果から『観光開発の成功度』の評価には、地域内のアクセスルートや交通容量および観光資源の開発などの要因が強く影響していることが判明した。また、『地域の活性化』に最も影響を与えている要因は「x8:新たな観光資源の開発」(2.7643)であり、次いで「x7:施設の拡充・改善」(2.3675)、「x2:他の地域との道路ネットワーク」(1.6213)などの順であった。『地域の活性化』の評価には、観光資源そのものの開発やアクセスルートに関する要因が強く影響しているようである。換言すれば、行政が観光開発により地域の活性化を図る場合、新たな観光資源の開発はもとより、従来より存在する資源を見直すことやアクセスルートの整備を重要視していることが判明した。さらに、「x8:新たな観光資源の開発」が「観光開発の成功度」「地域の活性化」の両方に大きく影響する要因となっており、観光開発および地域活性化の成否に“資源開発”が重要であることが指摘された。

表－2 アイテムの項目

No.	アイテム
1	貴市町村への案内標識
2	道の駅などの休息施設
3	走行速度の規制
4	交通渋滞の程度
5	追い越し車線
6	車線数・道路幅員
7	道路の舗装状態
8	冬期道路の除雪状態
9	道路の横断線形
10	道路の縦断線形
11	安全施設
12	道路付帯施設
13	施設間の道路ネットワーク



図－1 観光開発の視点からの道路評価のサンプル・プロット

(2) 数量化理論第Ⅲ類による分析

次に各市町村が回答した『観光開発の視点からの道路評価』について、数量化理論第Ⅲ類を適用し分析を行った。カテゴリーは表－2に示す「貴市町村への案内標識」をはじめとする13項目である。

図－1は数量化理論第Ⅲ類により求められた分析結果をプロットしたサンプル・プロットである。これによると、一般地域のサンプルが中央寄りに密集しているのに比べ、過疎地域のサンプルは多少バラついていることがわかる。サンプル・プロットはサンプルが中心部に密集しているほど選択されたカテゴリーは共通し、バラついているほど選択されているカテゴリーは共通していない。このことから一般地域では『観光開発の視点からの道路評価』が類似していることを示し、過疎地域においては異なっていることを示している。さらに、一般地域と同様な回答をしたと思われる過疎地域は、特徴として都市近隣に位置していることが明らかとなった。

4. まとめ

本調査は秋田県内の観光開発の現状について行政を対象として実施し、多くの興味ある結果が得られた。今後は、過疎地域における地域振興策のための1手段である観光開発について、課題点や問題点を総合的に把握するため、調査対象地域を過疎地域に限定したり、過疎地域が保有している観光資源についてトラベルエージェンシーを対象に調査を試み、分析を行うつもりである。